

幕別・江陵高 60周年へ記念事業

台湾で福祉研修

生徒の落合さん、藤原さん派遣

【幕別】来年度開校60周年を迎える江陵高校（鈴木讓二校長、生徒350人）は記念事業として、福祉科の生徒2人を台湾に派遣し、福祉に関する短期研修させる取り組みを計画している。初の試みで、現地の大学や施設の視察、交流を通じ、視野を広め、将来に生かしてもらおうのが狙い。

今回派遣されるのは、落合春奈さん（2年）と藤原実優さん（1年）。場所は台北市で、研修期間は5日間、来年3月21～25日を予定している。

日本だけでなく、世界の福祉事情を学んでもらうのが目的。福祉科担当の桂小春教諭は「台湾は、家族介護が主流ではあるが、少子高齢化が進む中で、介護保



鈴木校長（左）から激励を受ける落合さん（中央）と、藤原さん（右）

険制度の導入も計画されているようなので、現状や課題など現地調査する価値がある」としている。

人選は選考会を経て10月に決定。研修には語学や現地で発表する資料を作成するため、事前学習を定期的に行う。実施させた上で臨む。研修費は、運営する多田学園（多田順一理事長）が記念事業費用として負担する。

落合さんは医療ソーシャルワーカーを目指しており、「福祉を広く学ぶ貴重な機会。自分の将来のプラスになればうれしい」、藤原さんは「入学して福祉の奥深さを日々実感。今回も多くのことを吸収したい」と、それぞれ話している。

福祉科はコース時期も含め、来年度で開設10年となる。管内高校では唯一の学科で、特色にもなっている。鈴木校長は「少子高齢化で福祉を取り巻く環境は厳しいが、研修の成果を還元し、全体のレベルアップにもつ

なげたい」と話している。

記念事業として、来年7月の学校祭に合わせ式典を行うほか、校舎前緑化事業など2カ年で進めている。

学園の出発点は1946年池田服装裁断学院（池田）だが、高校の前身は55年池田女子高（同、家庭科）が最初。62年普通科も開設、64年、池田西高に名称変更し、共学制とした。75年食物科閉科、85年に幕別の現在地に移転し、現校名に。福祉コースは2005年に開設、09年に福祉科にした。（佐藤いづみ）